



フラッシュ放流の結果報告

3月22日に、土師ダムでフラッシュ放流を実施しました。フラッシュ放流は、ダムからの放流量を一時的に増やすことで勢いよく水を流し、河川の流速を上げることで石の表面を洗い流して、魚の餌となる付着藻類を更新させるほか、川の流れの悪い場所に溜まる汚れなどをきれいにするなど、ダム下流の河川環境改善を目的として実施しています。

●フラッシュ放流で確認された効果

【確認された効果①】
放流前と放流後の川の中の状況を比較すると、放流後は石に付着していた古い藻類が剥がれており、河床がきれいになったことが確認できます。

【確認された効果②】
・ダム下流の下土師では、クロロフィルaがフラッシュ放流直後に少なくなり、1カ月後に増加しました。付着藻類の剥離と更新が確認されました。

・生藻類率は調査を通じて97%以上で高く、調査期間を通じて、新鮮な藻類が多く良好な状態と考えられます。

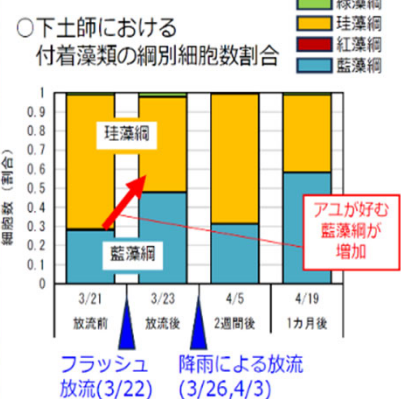
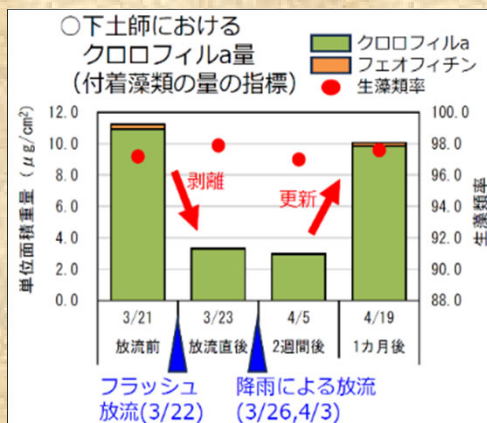
【確認された効果③】

・アユのはみ跡が多い箇所は、ピロウドラソウ属やコンボウランソウ属といった藍藻綱が多い箇所とされています。
・フラッシュ放流後に、藍藻綱の割合が多くなりました。立体的な群体を形成することが多い珪藻類が多く剥離したためと考えられます。

今後の河川環境改善の取組みについて、環境放流検討部会に諮り、フラッシュ放流の在り方・必要性を検討し、関係各所との調整を経て、フラッシュ放流を実施していきます。



8月11日(日)、土師ダムでは50周年記念 夏の見学イベント開催
念行事の一環として、夏のダム見学イベントの開催を予定しています。
詳しい行事の内容については土師ダム管理所ホームページ、公式X、チラシなどで改めてお知らせします。



クロロフィルα

光合成で光エネルギーを吸収する役割を持つ物質。葉緑素。藻類の現存量の指標となる値。数値が大きいほど現存量が多い。

フェオフィチン

クロロフィルからマグネシウムが離脱して黄褐色に変色したもの。死滅した藻類の量の指標となる値。数値が大きいほど藻類の活性が低い。

八千代湖の水質(5月)

土師ダム湖心の水質(mg/L)

	COD(全層)		総窒素(表層)		総リン(表層)	
環境基準	3.0		0.43		0.018	
4月	2.4	○	0.58	×	0.018	○
5月	3.2	×	0.55	×	0.016	○

ダム周辺の観光客数(6月)

令和6年6月 5,450人



はじ丸

国土交通省中国地方整備局 土師ダム管理所

広島県安芸高田市八千代町土師369-24

TEL : 0826-52-2455

E-MAIL : haji@cgr.mlit.go.jp

URL : <http://www.cgr.mlit.go.jp/haji>

Twitter : @mlit_hajimaru

「はじまるだより」はメール配信します。希望される方は、上記の土師ダム管理所のメールアドレスに連絡をお願いします。